# 序

厚生省児童家庭局母子衛生課所管の心身障害研究は昭和50年は８つの研究グループに分けられ，そのうち小児慢性疾患に関する研究のグループは東海大学木村三生夫教授を主任研究員として行われてきた。

昭和51年度はこの小児の慢性疾患に関する研究グループがさらに３つに分けられ，小児慢性疾患（臓器系）に関する研究グループ（主任研究者大国真彦），小児慢性疾患（内分泌，代謝，血液系）に関する研究（主任研究者合屋長英），小児慢性疾患（神経系）に関する研究（主任研究者木村三生夫）となった。

小児慢性疾患（臓器系）に関する研究グループの中にはさらに６つの研究グループがおかれ，最終的には９つの研究班が結成され，それぞれの分野における研究が行われた。これは次のごとくである。

1. 小児腎疾患の臨床的研究，研究班員小林収（前新潟大学教授，現，富山医科薬科大学教授）
2. 小児心疾患の臨床的研究
   1) 小児心筋疾患の臨床的研究，研究班員大国真彦（日本大学教授）
   2) 先天性心疾患の長期管理基準の設定に関する研究，研究班員曲直部寿夫（大阪大学教授）
   3) 川崎病（MCLS）の心臓障害に関する研究，研究班員草川三治（東京女子医大教授）
   4) 動脈硬化症の一次的（小児期）予防に関する研究，研究班員熊谷通夫（都立小児病院副院長）
3. 難治性ぜんそくに関する研究，研究班員中山喜弘，（埼玉医大教授）
4. 小児の難治性肝疾患の病因，早期診断治療に関する研究，研究班員小林登（東大教授）
5. 先天性四肢障害に関する臨床的研究，研究班員馬場一雄（日本大学教授）
6. 筋拘縮の発生予防に関する研究，研究班員堀誠（国立小児病院医長）

これらの研究班は幾つかの研究班は３年間，２～３の研究班は２年間，一部の研究班は１年間の研究を行ったものであるが，研究班全体としてはそれぞれの成果を挙げて，昭和51年度で終了するものである。

本報告書はこれらの研究班の成果をまとめたもので，極めて多くの注目すべき業績が含まれており，中には早急に全国の医療施設に普及すべきであると考えられるものも少なくない。これらの研究成果がわが国の心身障害医療に一日も早く役立つようになることを願うものである。

なお本研究報告書には評価委員より戴いた評価の結果をも掲載した。評価委員の先生に改めて感謝の意を捧げるものである。

昭和52年３月

主任研究者（班長）
日本大学教授　大　国　真　彦

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

序

厚生省児童家庭局母子衛生課所管の心身障害研究は昭和 50 年は 8 つの研究グループに分けられ,そのうち小児慢性疾患に関する研究のグループは東海大学木村三生夫教授を主任研究員として行われてきた。

昭和 51 年度はこの小児の慢性疾患に関する研究グループがさらに 3 つに分けられ,小児慢性疾患(臓器系)に関する研究グループ(主任研究者大国真彦),小児慢性疾患、(内分泌,代謝,血液系)に関する研究(主任研究者合屋長英),小児慢性疾患、(神経系)に関する研究(主任研究者木村三生夫)となった。